

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471000545	事業の開始年月日	平成13年10月1日
		指定年月日	平成13年10月1日
法人名	株式会社コムロード		
事業所名	もえぎケアセンター下倉田		
所在地	(〒244 -0815) 神奈川県横浜市戸塚区下倉田町794-1		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和3年2月24日	評価結果 市町村受理日	令和3年5月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎食のメニューをバランス良く考え、旬の食材を使い手作りをしている。初詣、節分、お花見など季節行事を毎月行っている（今年はコロナ禍で外出行事は出来なかった）誕生会、秋祭り、クリスマス会では入居者の意見を取り入れながら入居者が参加出来るイベント作りをしている。敷地内の花壇に植えられた草花を楽しみながらの庭散歩では季節を感じながら下肢筋力の向上、体力維持に繋がっている。スタッフの子供が出勤に同伴することもあり、世代を超えた交流が生まれ入居者にとっても良い刺激となっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
書類調査月	令和3年3月	評価機関 評価決定日	令和3年5月10日

新型コロナウイルス感染防止の観点から書類方式とする

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇理念の共有と実践 ・職員は理念「利用者と一体感ある介護サービスを創造する」の実現に向け、ゆとりと夢のある介護サービスの実践に努めている。明るい笑顔で利用者の気持ちに寄り添い、家族のように接する職員の対応に、家族から感謝の声が多く寄せられている。 ◇徹底した新型コロナウイルス対策 ・ハード面（リスクゾーン等の設定、防護品の整備、消毒の徹底など）とソフト面（食事、入浴・トイレ介助など日々のケアおよび日常の行動）における徹底した感染防護策を定めた「コロナ対応マニュアル」に基づき、職員は「感染させない、感染しない」の精神で、日々行動し、ケアに取り組んでいる。 【事業所が工夫している点】 ◇コロナ禍における日常生活維持の工夫と家族への対応 ・コロナ禍で外出行事が出来ないため、事業所内のイベント（秋祭り、クリスマス会など）は利用者の希望を取り入れ、職員と利用者が一緒に楽しめるようにして、刺激のある日常生活を維持できるよう工夫している。 ・家族に対してはイベントや日常の寛いだ様子の写真を送り、面会が制限される中、少しでも安心してもらえるようにしている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	もえぎケアセンター下倉田
ユニット名	桜の家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と5つの指針を玄関とダイルームに掲示している。ミーティングで実践出来ているかを話し合いサービス提供内容を見直している。	・管理者と職員は、「利用者と一体感ある介護サービスを創造する」という基本理念および5つの行動指針に沿ったケアの実践に努めている。 ・職員は、利用者や訪問者、職員間でも笑顔で接し、事業所内が温かい雰囲気になるよう心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。秋祭りやハロウィンでは地域住民の参加を呼びかけて交流の場を設けていたが、今年はコロナ禍で出来なかった。	・町内会に加入しているが、今年度はコロナ禍のため、地域との交流はできなかった。 ・昨年度までは、事業所の秋祭りには多くの地域住民が参加し、また地域ケアプラザ主催の体操教室で利用者は地域の人と交流していた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族から相談があった場合には経験と知識を基にアドバイスをしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催していたが、今年度はコロナ禍で殆ど出来ず、資料の提出のみとなった。	・運営推進会議は2か月に1回家族代表や地域包括センター職員が参加して開催している。 ・今年度はコロナ対応で事業所での会議は開催せず、事業所活動状況を書面で報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて相談したりアドバイスをもらったりしている。	・地域包括センターの担当者とは、随時近況を報告し、相談して協力を得ている。 ・昨年度はグループホーム連絡会に参加し情報交換したが、今年度はコロナ対応で中止している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングで定期的に勉強会や話し合いを行い、一人一人が普段の言動を振り返り、防止に努めている。 (運営推進会議があれば「身体拘束適正化委員会」で現状報告をしている) ユニット入口のロックは家族の理解を得ている	・「身体拘束排除マニュアル」を整備し、スピーチロックを含め、身体拘束のないケアに職員全員で取り組んでいる。 ・安全に配慮し、家族の同意を得て玄関やユニット入口は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に勉強・話し合いのばを設け防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	複数人の入居者が成年後見人制度を利用しており、実践で学習出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前と入居後も不安や疑問に対しては丁寧な説明を行い、理解・納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話連絡時を機会に家族や後見人とコミュニケーションをとり意見や要望を聞き、サービスに反映している。	・利用者の意見や要望は日々のケアの中で汲み取り、その都度検討して運営に反映している。 ・家族からは面会時やケアプラン更新時に意見要望を聞いているが、今年度はコロナ禍で面会も難しいので、電話で対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で報告・提案を管理者に伝えている。	・管理者は、ユニット会議や毎日の申し送りで職員の意見・要望を把握し、運営に反映するようしている。 ・職員の資格取得の費用負担や、外部研修の勤務扱いなど、設置法人による職員のバックアップ体制が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの働きやすい環境は常に考え、個々の働きも給与に反映させている。休憩時間についても整備した。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため外部研修はなく、社内でのリモート研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍のため外部との研修はないが、法人内で管理者研修を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に家族から本人の困っていることを聞き取り、利用後は本人が安心感を持つような関係作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時に家族の困っていることを聞き取り、必要な支援を行いながら安心して入居出来るグループホームであるよう信頼関係を築いている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容から現状をしっかりと把握した上で必要な支援を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは見守り、お手伝いを通して共に生活しながら協力関係を築いている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で制限がかかっている中、通院や必要なものの調達など現状出来ることの協力をお願いしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍で面会制限があるものの、通常は近所の馴染みの方が面会に来られたりしている。	・入所時のアセスメントや本人、家族から情報を得て、馴染みの人や場所との関係を把握している。 ・利用者の知人がお花をもって来訪したり、家族が付き添って美容院に出かけるなどしていたが、現在はコロナ禍のため中止している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に生活する中で連帯感が生まれたり、またスタッフが介入して取り持つことで支え合う関係が生まれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前は契約終了後もフォローしていた家族はいたが、現在はいない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族からこれまでの暮らし方を聞き取り、また生活しながら本人の意向をくみ取りながら支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用開始時に本人、家族から聞き取った従来の暮らし方や思いを記録し、意向把握の参考にしている。 ・職員は利用者との会話を多く持つよう心がけ、特に散歩や入浴など、1対1で接する機会にはゆっくりと思いを聞いている。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族やケアマネから生活歴やサービス利用の経過を聞き把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子観察、申し送りやケアカンファレンスで情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者がアセスメントを行い、家族からの要望書や個人担当者の意見を基に介護計画を作成している。本人に変化があった場合はその都度介護計画を変更している。	・利用者、家族の意向・要望を把握し、職員の意見と日常の生活状況を加味して介護計画を作成している。 ・介護計画は、初期プランや区分変更時は半年、安定していれば1年のプランになっている。状況変化時にはその都度、見直し対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容は個人記録・個人経過記録に記入し、さらに職員間のコミュニケーションなどで情報共有している。また、ケアカンファレンスでの意見を参考にしてケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族とコミュニケーションをとり、状況に応じて柔軟な支援やサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアなどの支援は受けていないが、地域に住む陶芸教室の先生に来てもらい作品を作り、出来上がった器を日常に使うなどしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療は24時間対応で緊急時にも適切な医療が受けられている。また必要に応じて個別に往診回数を増やしている。	・大半の利用者が事業所の協力医をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。 ・入居前のかかりつけ医の訪問診療を受けたり、家族同行で通院している利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で日常の様子や変化を伝えて情報共有している。緊急時は往診医と連携して適切な医療看護が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は往診医から情報提供してもらい、その後ソーシャルワーカーと情報交換しながら早期退院出来るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については入居時に事業所で出来ることを説明しているが、その時が来たら往診医から家族に説明をしてもらい、家族の意向を聞き支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所方針を記した「看取りについて」に沿って、入所時に利用者、家族に説明している。 ・重度化や看取りについては訪問診療医や看護師にアドバイスをもらいながら実践で学んでいる。職員用に「ターミナルケア・精神的マニュアル」が整備されている。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当については消防隊員から訓練を受けている。また急変時の対応についてもケアカンファレンスで学ぶ機会を作っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回の避難訓練を行っている。しかし今年度はコロナ禍のため行っていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・例年は夜間想定1回を含め年2回避難訓練を行っているが、今年度はコロナ禍のためできていない。消防署員の立ち合いがあったときは蘇生訓練を行っていた。 ・災害備蓄品は水・食料・防寒シートなどをリスト化し管理している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で訓練のできないなか、職員間で万が一に備えた各種シミュレーションを行っておくことが望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	外部評価	
			自己評価 実施状況	外部評価 実施状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の指針に沿った支援と人格を尊重した言葉遣いや対応をしている。	・職員は「接遇マニュアル」で接遇マナーの重要性を研修している。職員には「言葉と態度は同じもの」と伝え、現場で不適切な行動があればその場で直ぐ注意をしている。 ・個人情報の入った書類は事務室で施錠管理をしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意思表示を待つケアに努めている。入居者のよっては声掛けを工夫したり自己決定が出来るように支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのように過ごしたいか意思表示出来る入居者は少ないが、こうしたいだろうと思うことをしてあげられるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に身だしなみのは気をつけ、好みや似合う物を選び、四季に応じたおしゃれを楽しんでいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや旬の食材を取り入れ献立を作っている。目で楽しめるように盛り付けにも季を配っている。配膳や下膳も積極的にして頂いている。	・献立作成と調理は職員が行っており、その都度利用者の希望を取り入れることができている。 ・行事食に寿司、赤飯、刺身などを用意し、出前のピザや、ハンバーガーやカップラーメンを買ってきて、食事にメリハリをつけている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の既往や体調を把握し、その人に合った栄養・水分摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医や衛生士の指導を受け個々に合わせた口腔ケアを毎食後行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表や日々の体調に合わせて声掛けや誘導を行い、失禁防止や自立に向け支援している。	・排泄自立の利用者の場合でも排泄後のトイレの確認を行って、体調変化の有無を把握している。 ・排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、失禁防止に努めた結果、慢性的な臀部のかぶれが治った事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認し、水分摂取と散歩、体操などを行い予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個々に希望を言える方は少ないが今までの習慣を考慮して入浴出来るよう支援している。	・入浴は週2～3回、午前中を原則としているが、利用者の希望で午後の入浴も可としている。 ・湯温や入浴時間を考慮して、利用者がくつろいで入浴できるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜の睡眠状態や体調を把握し、休息が必要な方には午睡の時間を取るなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については往診医や薬剤師から説明を受けている。服薬支援は必ず行い、症状の変化があれば往診医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた家事を日課にしている。またコロナ禍で外出が出来ないため室内で楽しめる行事を企画して気分転換をして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の散歩は日課になっているが、コロナ禍で外出が出来ない。しかし看取り期の方の希望によりテーマパークや初詣に出かける支援をした。	・コロナ禍であっても、天気の良い日は敷地内の散歩を行っている。以前は初詣、花見、一泊旅行などの外出レクを行っていた。 ・家族と外出し、散歩や外食を楽しんでいた利用者も、コロナ禍で外出できなくなった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは預かっているが、お金を理解して使える方は殆どいない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやり取りが出来る方はいないが、年賀状に名前やひと言を書けるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内の空調には十分気を付けている。共有空間に装飾をする担当を決め、四季折々の装飾がされている。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビング、廊下は職員が時間と担当を決め、清掃を行っている。浴室、トイレは使用后清掃している。 ・リビングに季節の花を飾り、行事に関連した飾り物を利用者と一緒に製作し、季節感を味わっている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士がソファーに座っています。時々洗面所のソファーに一人で座っている方もおられます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者の生活スタイルに合わせた家具・ベッドが配置され、家族の写真を飾ったり大切な思い出の品を飾るなど個性豊かな居室となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が、馴染の家具や旅行の思い出の品、家族の写真などで自分らしい部屋を作っている。 ・職員が居室の掃除と衣類の入れ替え、整理などを行い整理・整頓に努めている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名札は季節ごとの装飾で飾られ、トイレなどもわかりやすく表示している。		

事業所名	もえぎケアセンター下倉田
ユニット名	菊の家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内各所に理念を掲示している。サービスは理念に基づくサービスを提供している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。地域住民向けのイベントを行い、交流を行っているが、今年はコロナ禍のため開催出来なかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談があればいつでもアドバイス出来るが、殆ど地域住民からの相談はない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催していたが今年はコロナ禍のため、資料の提出のみになっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要な場合は相談しているが、市区との関わりは殆ど無い。ケアプラザとの関わりの方が多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはミーティングで定期的に話し合いをして、不適切な言動がないか確認し合い防止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の話し合いの時に同時に行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に成年後見人制度を利用している方がいるので実践で学習出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の相談時から十分な説明を行い、入居して頂いている。入居後も不安や疑問に対してきちんと説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望書や家族とのやり取りの中で意見を聞く機会はある。しかしケアプランへの要望はあるものの、運営に関して意見する家族は殆どいない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで意見や提案があれば聞き、管理者から代表者へ伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境整備は常に考え、個々の実績を把握して給料に反映させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため研修機会が少なかった。しかしZOOMで出来る研修を行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍のため外部との交流は出来なかったが、法人内事業所間でサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前から困っていることは把握しており、入居時にはその困っていることや不安がないように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者と同じように相談時から困っていることは把握しており、同じく困っていることや不安なことがないよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としているサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は見守り、お手伝いを通して共に生活する物同士で協力をしながら関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や通院など家族にお願いしている事は多かったが、今年はコロナ禍のため家族にお願いすることは少なかった。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が面会に来てくれたり、馴染みの美容院に行ったりしていたが、今年はコロナ禍のため面会も外出も出来なかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に生活する中で連帯感が生まれたりスタッフが介入することで支え合う関係が出来たりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居直後は何かしらの連絡を取り合うが、しばらく経つとそのような関係もなくなる。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いをくみ取りながら意見を聞き本人の希望にそうように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活の情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、ケアカンファレンスでの把握はもちろんのこと、日々の変化を見落とさないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族からの要望書・個人担当からの報告・ケアカンファレンスでの話し合いなど、それぞれの意見を聞き介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化を個人記録や個人経過記録に記入し、さらにケアカンファレンスでの話し合いなどを介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で家族は居室に入れないが、どうしても会いたいという要望に応え、面会室でコロナ対策をしながら夫婦二人で昼食をしてもらうなど、工夫した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアなどはいっていないが、マッサージや訪問薬局など取り入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療や今までのかかりつけ医に通うなど、適切な医療を受けられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で入居者の状態観察してもらっている。必要があれば往診医やかかりつけ医と連絡を取り適切に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は往診医から連絡してもらっている。退院に向けてはソーシャルワーカーと連絡を取り合いリハビリの進具合など聞きながら調整している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については入居時に説明している。その時が来たら往診医から家族や訪問看護師に説明してもらい連携を取りながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や蘇生については消防隊員から指導を受け、実践に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回に避難訓練を行っているが、今年はコロナ禍のため出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的にミーティングなどで声掛けや対応などを振り返り、尊重した対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の出来る方には思いや希望を聞いている。そうでない方には今までの思いをくみ取り行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	思いを伝えられる方は日々、要望に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ・整容には気を遣っている。爪や髪の毛の乱れにはスタッフも気配りしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや旬の食材を取り入れて献立を立てている。下ごしらえを積極的に手伝ってくれる方がいる。下膳は個々をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた摂取量と水分量に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の口腔ケア指導を基に毎食後、個々に合わせた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を基に声掛け・誘導を行い失禁がないように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況に合わせ、水分摂取や運動を促し、それでも駄目なときは処方薬などで調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	その時々意思表示の出来る方は午後や夕方に入浴している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方により午睡したり、居室でのんびりしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師から説明を受けて把握している。スタッフが服薬支援をしている。症状の変化はすぐに往診医に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみごとがあり、思い思いに過ごしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナの影響で何処にも出掛けられず、敷地内の散歩のみになってしまった。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方はお金の管理が出来ずお預かりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をもっていた方もいたが頻回に掛けるため家族が持ち帰った。ご主人から定期的に手紙が届き、時々返事を書いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内、温度や不快な臭いがないように努めている。季節に合わせた装飾がされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間と歌を歌ったりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は個々の使い慣れた持ち物で個性的になっている。また家族写真や思い出の品が飾られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の居室には表札が付けられている。またトイレなどの場所もわかりやすく表示されている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 もえぎケアセンター下倉田

作成日 令和 3年 5月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		コロナ禍で訓練のできないなか、職員間で万一来た各種シミュレーションを行っておくことが望まれます。	年に2回、避難訓練のシミュレーションを行う。	今までの夜間想定避難訓練を振り返り、入居者のADLに合わせた避難方法をシミュレーションする。年2回（9月・3月）	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。